

# 公共経済分析I

講義ノート4

---

佐藤主光(もとひろ)

一橋大学経済学研究科・政策大学院

# 神の見えざる手

# 財政学のアプローチ

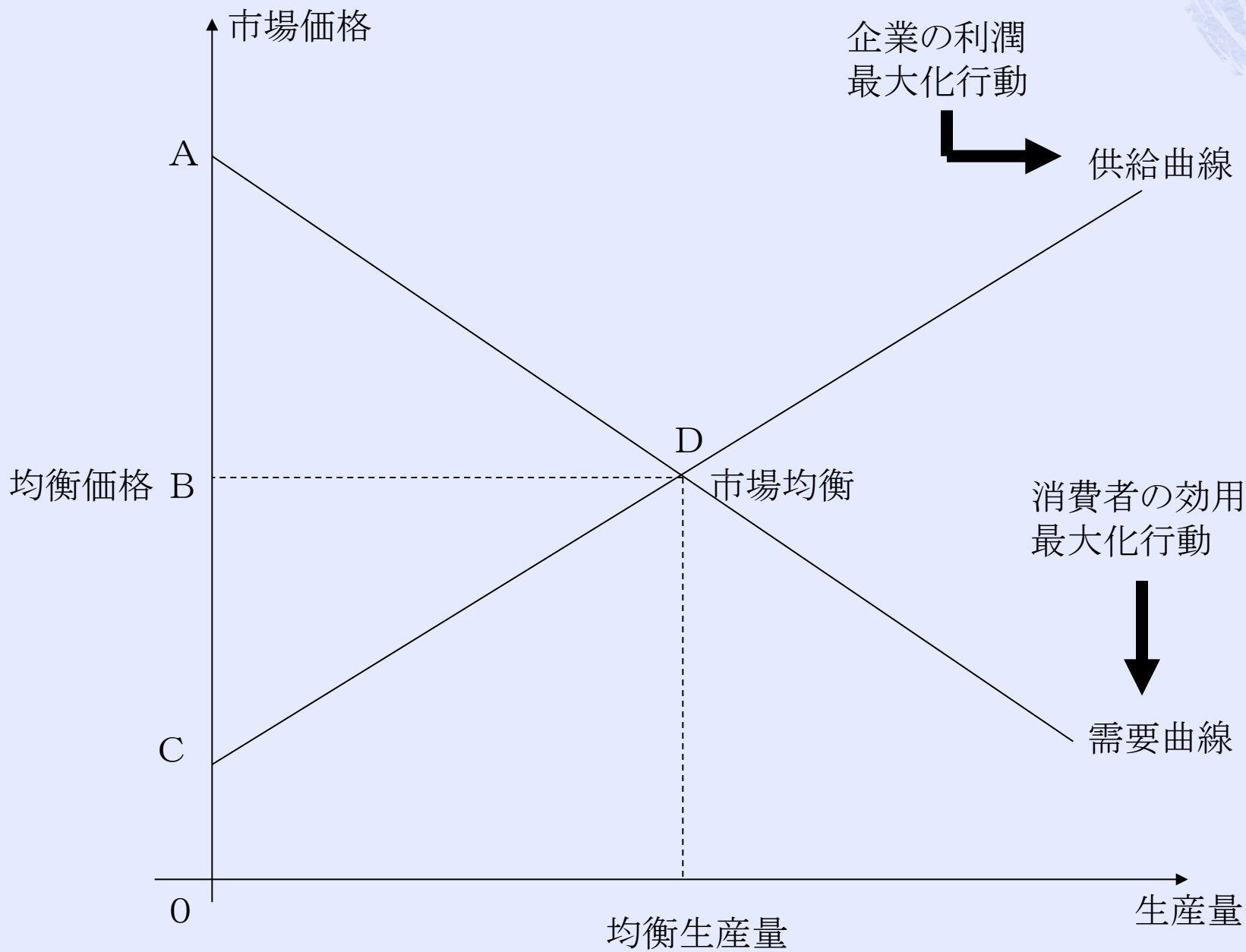
- ◆ 市場経済を前提とする。⇒市場メカニズムへの理解が不可欠
- ◆ 政府の政策の「規範的」な役割は市場に取って代わる(代替する)のではなく、
  - (1) 市場機能を矯正・補完すること
  - (2) 市場(価格)メカニズムに及ぼす「歪み」を最小限に留めること。
- ◆ 「理想的」な市場から分析を始める。

# ベンチ・マーク

- ◆ 経済学における評価＝ベンチマークに対する相対評価
- ◆ 公平・効率＝現実を評価するベンチマーク
- ◆ 「理想的」な市場も「現実」の市場を理解・評価するためのベンチマークを提供
- ◆ 何故、ベンチマークから乖離するのか？⇒理想的な市場の「前提条件」(仮定)が満たされていないから＝「市場の失敗」
- ◆ 政策の処方箋＝満たされない前提条件への対応

# 厚生経済学の第1基本定理

- ◆ 市場メカニズムが「理想的」に機能していれば帰結する均衡はパレート効率的。
- ◆ パレート効率的  
= 実行可能な資源配分のうち、誰かの厚生(効用)を損なうことなく、他の誰かの厚生を高めることが可能な(=パレート改善可能な)実行可能な資源配分が他に存在しない状態
- ◆ 部分均衡分析: 社会的余剰の最大化  
= パレート最適の「必要条件」





# 効用最大化と効率性

- ◆ 家計の効用最大化＝「消費者主権」
  - ⇒家計は各々予算制約の枠内であれば、自らの選好・ニーズに即するように(1)消費選択、(2)労働供給、(3)貯蓄選択(＝「異時点間消費選択」)ができる。
  - ⇒顕示選好＝家計の選択(例:需要関数)に彼らのニーズ・選好が織り込まれる
- ◆ 交換効率性＝ニーズに即した資源配分が実現
- ◆ 配給制度・社会主義体制では消費者の選好が顕示される場がない！ ⇒交換効率性が満たされない。
- ◆ 経済のグローバル化のメリット＝交換効率性の改善

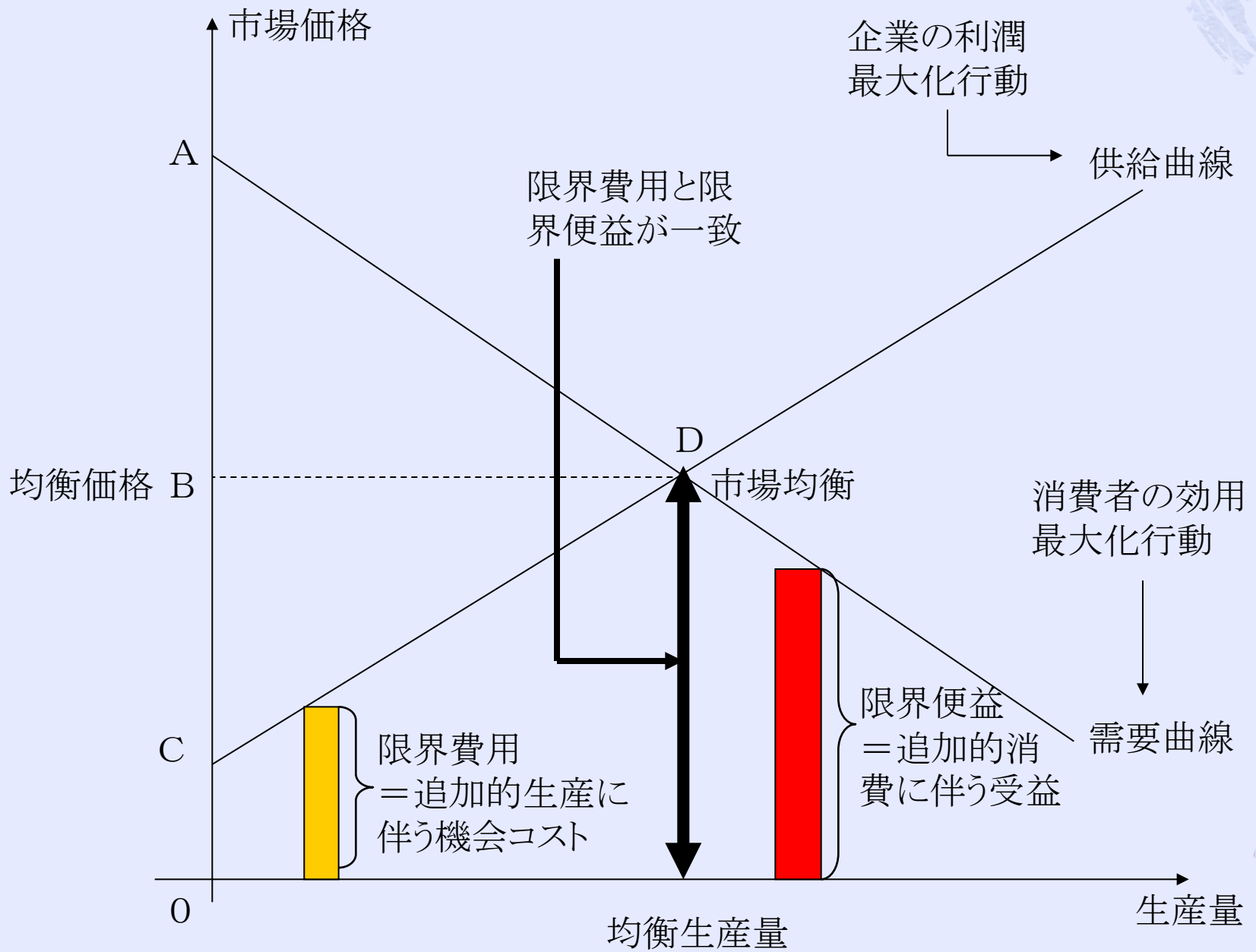
# 利潤最大化と効率性

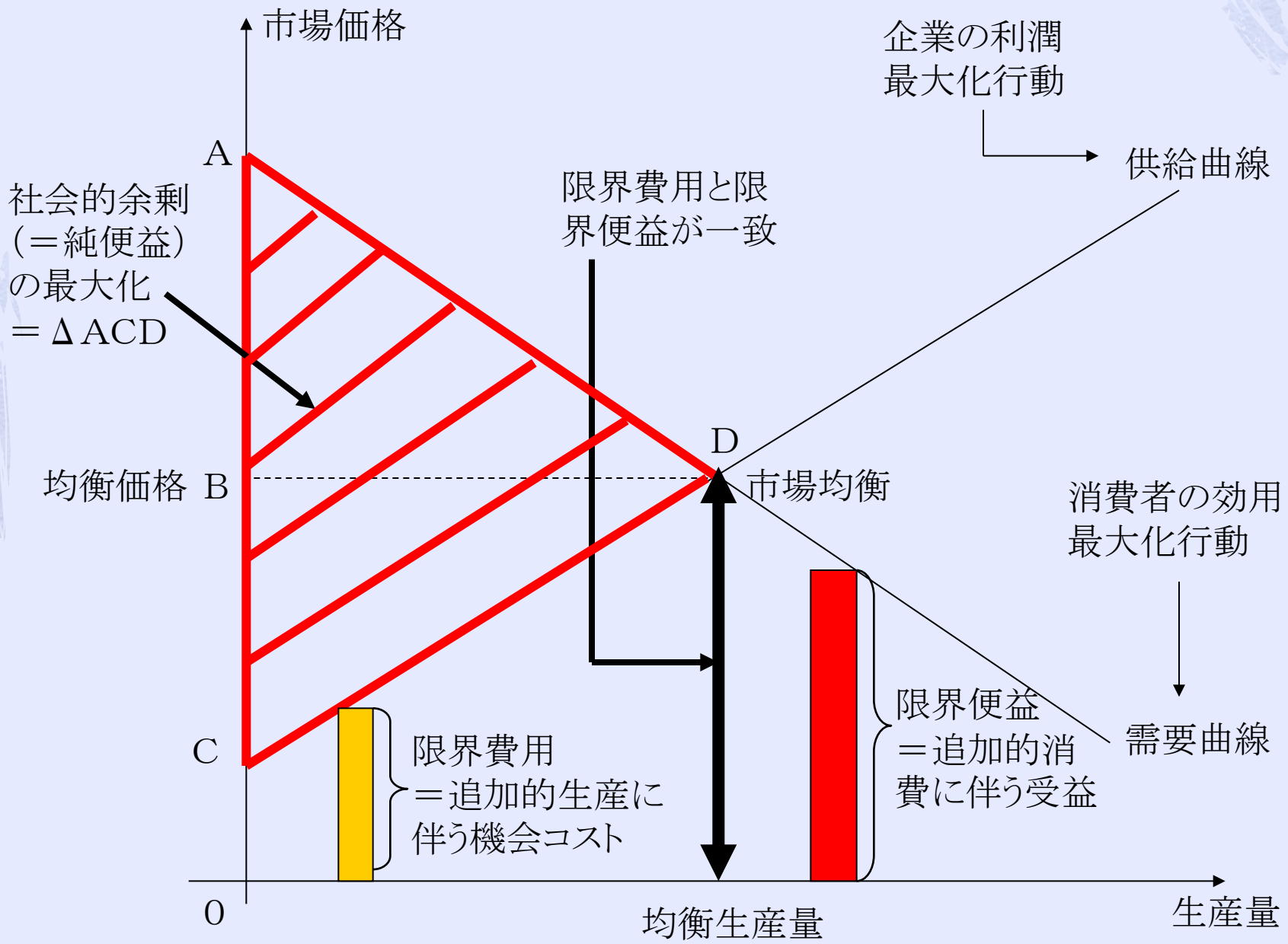
- ◆ 費用を最小化していない完全競争企業は利潤を最大化していない  
(対偶) ⇒ 利潤を最大化している企業であれば費用を最小化している
- ◆ 費用最小化 = 技術的効率性・配分効率性を充足
- ◆ 非営利 = 利潤を最大化していない  
⇒ 費用を最小化している (= 無駄なく資源を利用している) とは限らない。
- ◆ 留意: 非営利 = 社会厚生 の追及を意味しない!



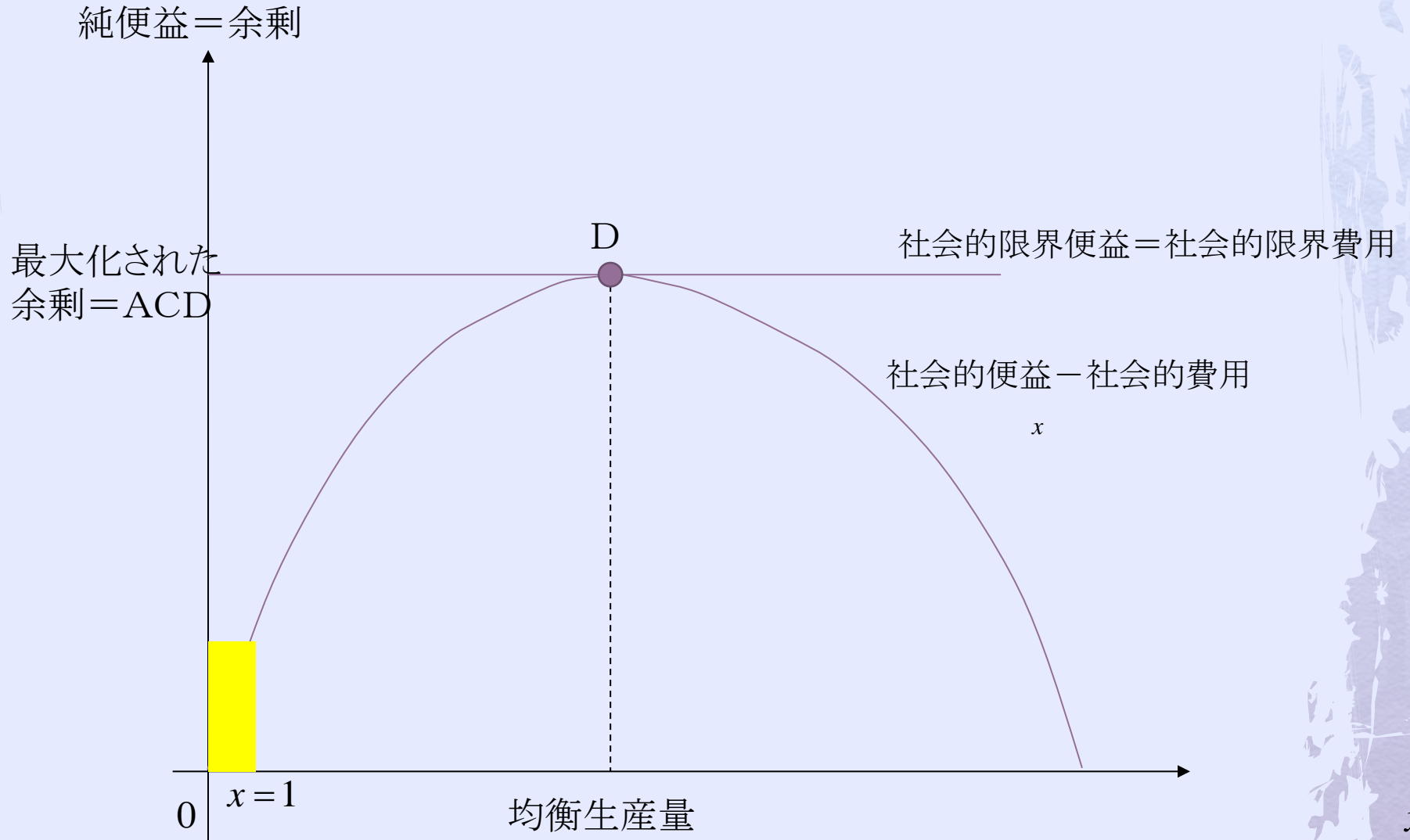
# 効用最大化と利潤最大化

	最大化の条件式 =一階条件	市場への反映
効用最大化	限界代替率=価格比 $MRS_{xy}(x, y) = p_x / p_y$ $p_x x + p_y y = I$	需要関数
利潤最大化	限界費用=市場価格 $MC(x) = p_x$	供給関数





# 効率的資源配分(その2)



# 効率性と市場均衡

- ◆ 余剰最大化の条件: 限界便益 = 限界コスト
- ◆ 市場経済では、両者は価格を介して一致することが保証される。

$$\text{留保価格 (限界便益)} = \text{市場価格} = \text{限界費用}$$

- ◆ 市場均衡は余剰を最大にしているという意味で「効率的」資源配分 (= 生産量) を実現。
- ◆ 余剰の最大化 = 経済の「パイ」を最大化  
⇒ パイの分配は公平の問題

# 留意：均衡＝効率？

- ◆ 競争(ワルラス)均衡が「効率的」なのは仮定ではなく結果
- ◆ 均衡だから効率的なのではない  
⇒市場均衡が効率的であるためには、いくつかの条件が満たされてなくてはならない
- ◆ ポイント：結果(均衡は効率的)を導く前提条件(仮定)に着目  
⇒仮定が現実に充足されていなければ、結果は「現実的」ではない
- ◆ 現実の均衡を評価するためのベンチマークとしての「理想的」均衡
- ◆ 現実 ≠ 理想 ⇒ 現実ではどの「仮定」がみたされていないのか？



# 何故、価格メカニズムか？

- ◆ 価格の情報伝達機能
    - － 価格 = 財貨・サービスの限界便益  
＝ 財貨・サービス生産の機会費用
  - ◆ 財貨へのニーズ・生産コストの情報を「集権化」する必要がない = Local information
  - ◆ 市場均衡は「計画」されるものではなく「自律的・分権的」に実現 = 自然調和
- ⇔ 社会主義・計画経済 = ゴスプラン方式 ⇒ 効率的資源配分を実現するために必要な情報が「高度過ぎ」

# 余剰と効率性

- ◆ 部分均衡分析において効率性は当該財の経済価値によって測られる
  - 便益 = 生産から生まれる便益 (消費者の満足・効用)
  - コスト = 生産に係る機会コスト (生産費用)
- ◆ ネットの経済価値 = 便益 - 費用 = 余剰

⇒ 効率化 = 余剰が最も高くなっている状態

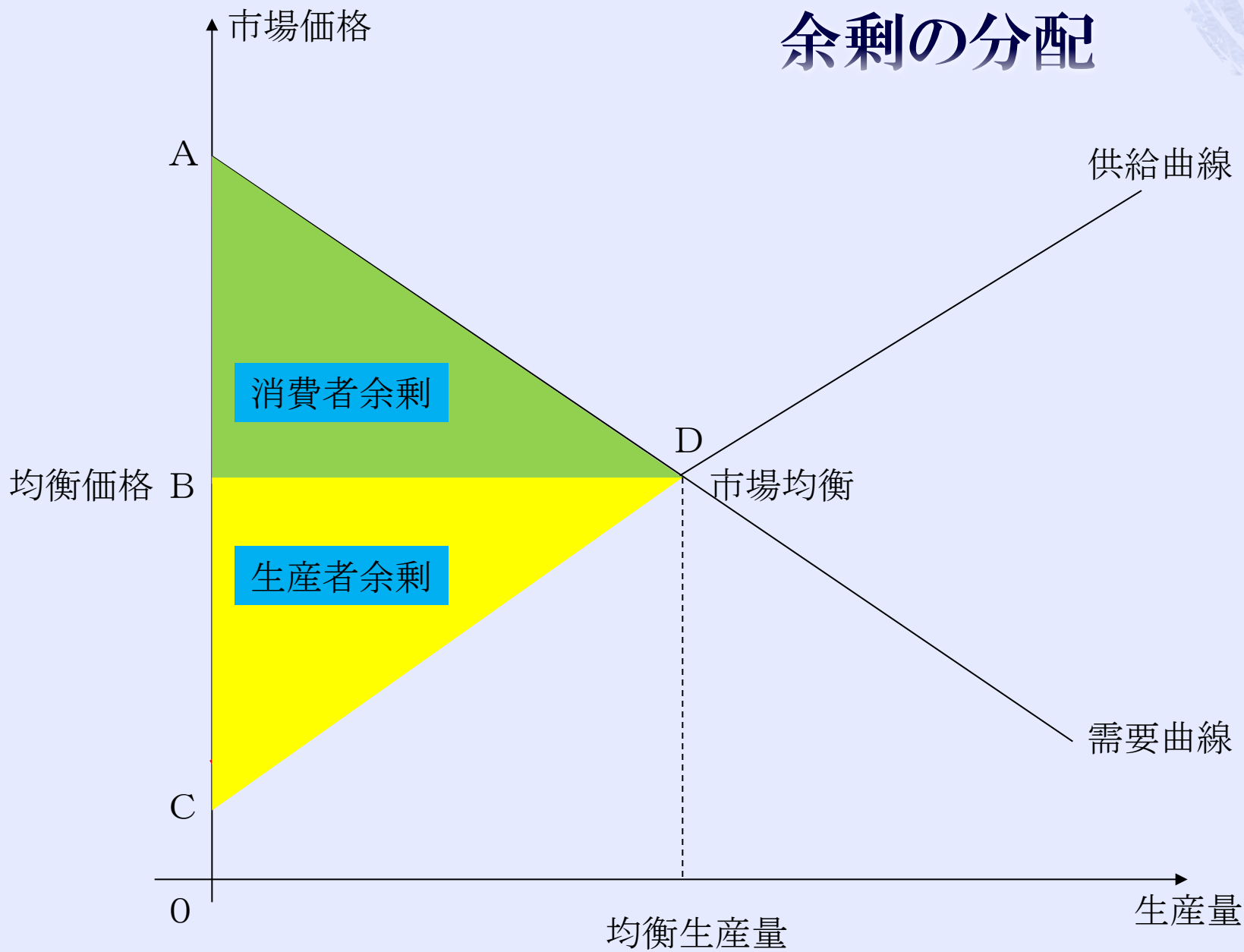
経済分析(モデル)	効率性の定義(概念)
一般均衡	パレート最適(効率)
部分均衡 = 一つの財貨・サービスの生産・消費に着目	余剰の最大化

# 効率と公平

- ◆ 市場均衡において余剰(=ネットの経済価値)は消費者と生産者(企業)の間で「分配」される
- ◆ 余剰 = 生産者余剰 + 消費者余剰  
⇒ 政策介入のないときの「分配」
- ◆ 参考: 国民経済計算の「三面等価」  
生産(付加価値) = 支出 = 所得分配

価値基準	定義
効率	余剰の最大化
公平	余剰の分配 再分配 = 余剰の分配の変更

# 余剰の分配



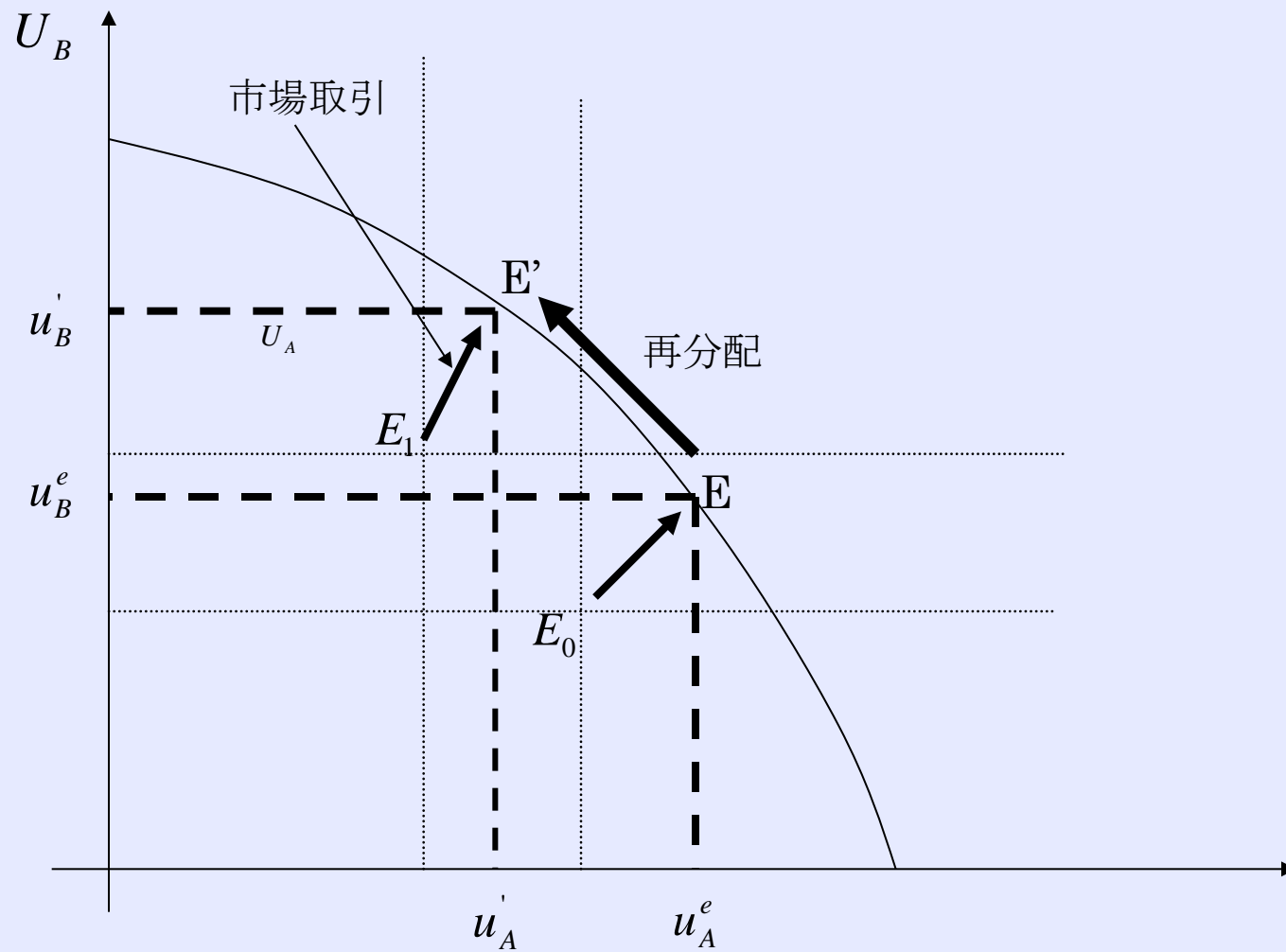
# 厚生経済学の第2基本定理

- ◆ 任意のパレート最適 (効率的) 資源配分は適切な初期保有量の再分配 (所得の一括移転) によって競争 (ワルラス) 均衡として実現可能
- ◆ 所得再分配 + 市場メカニズムによって公平、かつ効率的な均衡を達成

⇒

- ◆ 効率の追求 (= 競争原理) と公平の改善 (= 再分配) の分離
- ◆ 市場メカニズムと再分配政策の「補完性」

# 効用可能性フロンティア

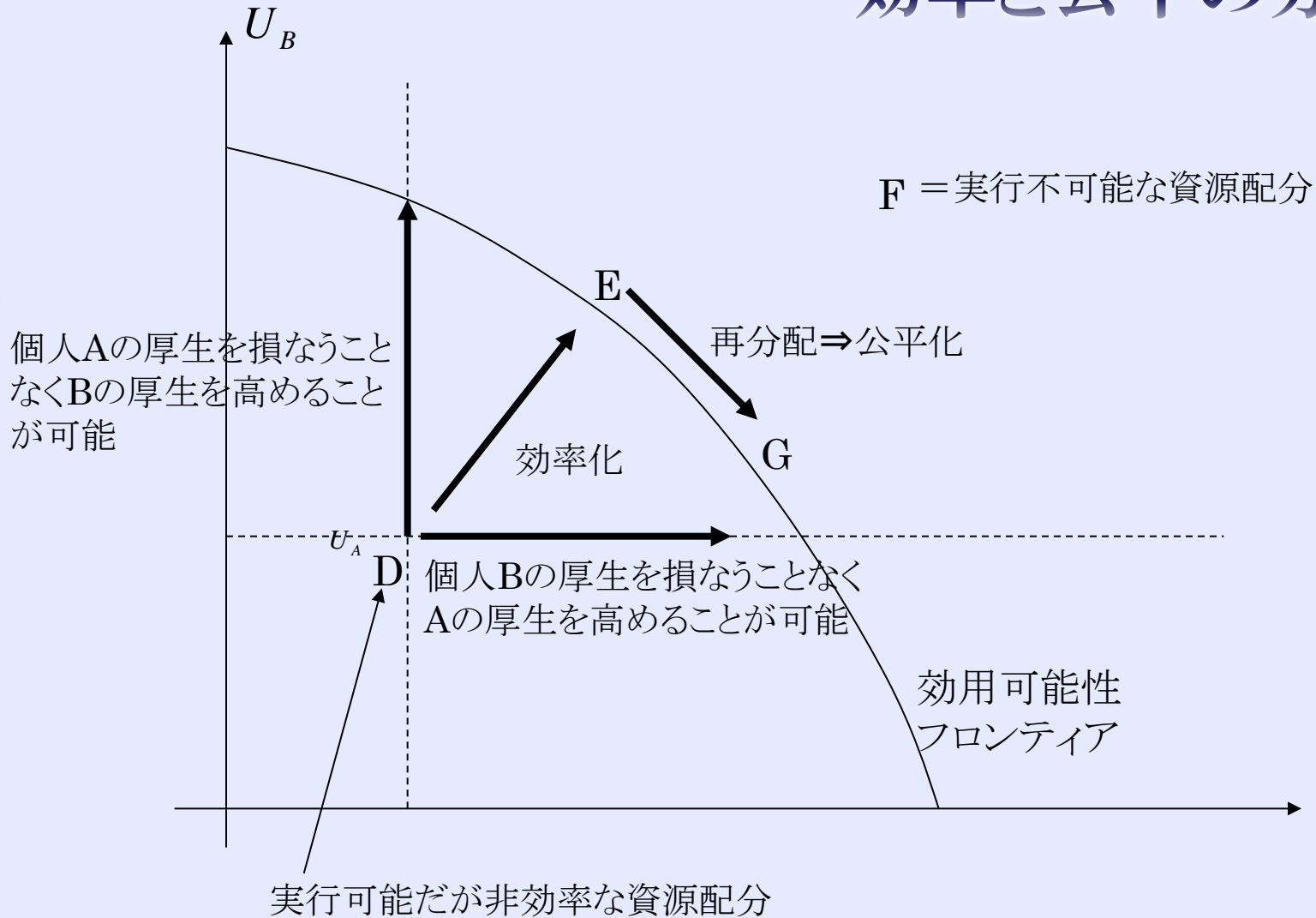




## 二分論：効率と公平の分離

評価の基準	課題(例)	対処
効率	外部性(公害の発生)	環境税・規制
	保険市場の逆選抜	社会保険(保険機能)
	公共財の過少供給 (「ただ乗り問題」)	競争原理(PPP)の活用
公平	所得格差	再分配・福祉

# 効率と公平の分離



# 保険と再分配の分離

	保険	再分配
機能	保険機能(リスク・シェア) －健康リスク －長寿リスク	低所得者(社会的弱者) 支援
財源	社会保険料 ➤「疑似」市場価格	税金 ➤目的税を含む
原則	応益原則 ➤給付と負担のリンクの担保	応能負担
原理	・競争原理の活用 ・経済政策	社会政策
評価の基準	効率性	公平性

# 改革の考え方:

資源配分の効率化



		改革対象(規制緩和・市場化、自由貿易)	
		現状	改革
「補完的」改革 (セーフティ ネット、再分配 等)	現状		
	改革		

公平の確保  
= 所得再分配



# 「市場の失敗」

# 市場が「理想的」に機能するための条件

1. 所有権が明確に規定されている。
2. 全ての市場参加者が「価格受容者」として行動している(=市場が「完全競争的」である)。
3. 取引される財貨・サービスの質等に関して家計と企業が情報を共有している。
4. 価格が生産に伴う「機会コスト」を適切に反映している。
5. 価格調整がスムーズに行われている



# 市場の失敗

	具体例	対処
所有権	契約の不履行・盗難	治安・司法の強化
不完全競争	独占企業による価格の吊り上げ	独占禁止法・カルテル防止
非対称情報	年金・医療保険市場の失敗（逆選抜等）	社会保障制度の充実
外部性	環境汚染・破壊	環境税・環境規制
公共財	「ただ乗り」の誘因による過少供給	公的供給・補助金給付

不公平	所得格差	所得税・福祉政策等現金給付や公共サービス（例；義務教育）等現物給付を通じた所得再分配
-----	------	--